



棚田から立ちこめる春霞み



棚田から見える七尾北湾

からは春霞みが立ちこめ、幻想的な霧囲気を醸し出している。その上をすうっと風が通り抜けていったような気がした。これが小牧らしい風なのだろうか。

海岸の方に目を向けると、牡蠣棚を配した北湾には、漁に出る船、青島、そして能登島が浮かんでいる。さらに向こう側にはうっすらとではあるが、隣町、穴水の不動埼が見える。まるで庭園のようにゆったりとした趣である。

能登小牧台へ

棚田を後にし、能登小牧台が立つ岬の方に足を伸ばしてみる。その途中、道端の土手からはフキノトウが



春の訪れを知らせるフキノトウ

そつと顔をのぞかせ、春の訪れが近いことを教えてくれた。

岬から棚田の方を眺めると、ほんのりと紅色の芽をつけた桜の枝越しに、ポートが浮かぶ小さな入り江や小牧の家並み、パウダーシユガーを振りかけたような段々に連なる棚田が見える。田舎らしいのどかな風景である。



能登小牧台から見える棚田



秋の稲刈りのあと、晩秋から厳しい冬を乗り越えてきた棚田は、ようやく春を迎えることができるのである。雪解け水が小川に流れる音が聞こえてくるような気がする。もうすぐここでは田を耕し始める人々をみる事ができるだろう。春はもうすぐそこまで来ている。

今月の 主要内容 CONTENTS

| | | |
|----------------|-------------|----|
| 安心の老後 | みんなで支える介護保険 | 4 |
| 光ファイバー160km整備! | | 8 |
| みんなでつくる「市民憲章」 | | 23 |